

馬ふんたい肥で良い土づくりを

○良い土とは？

良い土の条件とは、まず通気性・排水性が良いことです。

それでいて保水性・保肥性も良いという矛盾した条件を備えていなければなりません。

この様な理想の土を「団粒構造の土」といいます。

単粒構造の土

→土粒の隙間が小さくすぐ水びたしになるので、根の呼吸に必要な酸素が供給されず、根は窒息状態になってしまいます。

団粒構造の土

→団粒と団粒の隙間には、根の呼吸に必要な酸素が確保され、水やりのたびに新鮮な空気に入れかわります。

また、余分な水も隙間を通過して抜けていきます。つまり、通気性・排水性の良い土と言えるのです。

加えて、団粒の表面には水分・養分が付着し、団粒の内部に蓄えられます。

そして根は必要に応じて水分・養分を吸収します。

よって、団粒構造の土は、保水性・保肥性も兼ね備えているのです。

○団粒構造の土を作るには・・・

これには単粒同土を結合させる接着剤が必要です。その接着剤となるのが有機物であり、また有機物をエサとして増殖する微生物なのです。

例えば落葉を発酵させて作られた腐葉土は、やがて土の中で微生物によって分解され腐植土になります。

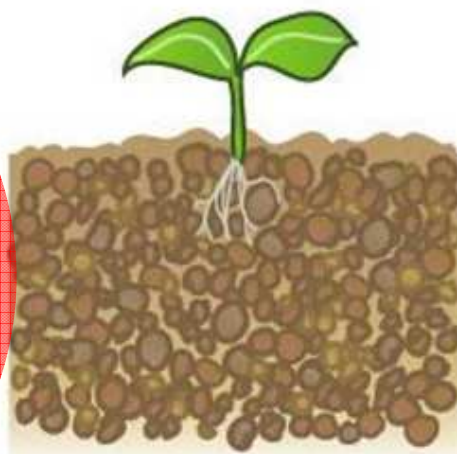
この糊に似た腐植が土の単粒を結合させ、団粒化を促進します。たい肥や馬ふんも同様の効果があり、単粒構造の土に混ぜて使用します。

こうすることにより、水やりなどで団粒がくずれても修復され、理想的な状態を保つことができます。

また、有機物を含んだ土壌は、保肥性にも優れています。



細かい土の粒子がかたまりになっている状態＝団粒化した土



土の粒子が詰まっている状態＝排水も悪く、根ものびない